

2019

5

May
No. 314

広報みしま

Mishima Town Public Relations



夢と希望を胸に新たなスタート

三島中学校入学式（10 ページに関連記事）



施設の内部



木の駅事業により搬出された杉材



生活工芸館裏に建設された薪ボイラー冷暖房施設

町内循環による

森林資源の有効利用を目指す

生活工芸館

薪ボイラー冷暖房設備完成

生活工芸館に薪ボイラー冷暖房施設が完成し、4月3日火入れ式が行われました。この事業は、福島県エネルギー地産地消モデル事業（中古住宅等スマートリノベーション事業）を活用したもので、総事業費は約5千400万円で、そのうち約4割が県からの補助金です。

導入機材は薪炊き簡易ボイラー1基、蓄熱槽1基、冷却塔1基、吸収式冷水発生機1基、ファンコイルユニット13基となっており、冷暖房稼働には1日当たり約160Kgの薪が必要となります。

今後は、昨年度から開始された木の駅事業と連動した燃料供給を具体化し、より一層の森林資源の有効活用によるエネルギーの地域内循環を図っていきます。

三島町と国立台湾工芸研究発展センターとの交流事業 交流を通じたものづくり技術の発展に期待

台湾草屯より 33 名が来町



台湾草屯の工芸関係者の皆さんと

昨年9月27日に台湾において18年ぶりに締結された、三島町と国立台湾工芸研究発展センターとの友好協定を受け、三島町で台湾の方を受け入れての交流事業が4月15日から17日まで開催されました。台湾からは、当時のセンター所長翁叙得先生をはじめ、台湾草屯の工芸関係者の方々33名が来町しました。当日は、桐寿苑の見学や、まだ雪の残る美坂高原や大林ふるさとの山の散策などを行いました。

また、工人の館では町伝統工芸士の方々の技術披露が行われ、互いのものづくりに対する思いを共有する有意義な場となりました。今後も交流を通じた生活文化の継承やものづくり技術の発展が期待されます。



選挙管理委員会の板橋徳美委員長から当選証書を受ける矢澤源成氏

三島町長選挙の開票結果

候補者名	年 齢	得票数
当選 矢 澤 源 成	67 歳	674 票
二 瓶 辰右工門	65 歳	587 票

8年ぶりの選挙戦となった三島町長選挙は4月16日告示、4月21日に投票が行われ、現職の矢澤源成氏（67歳・高清水）が当選しました。

町長選は矢澤氏と元福島県監査委員事務局長の二瓶辰右工門氏（65歳・西方）の二人が立候補。5日間の熱い選挙戦を繰り広げました。

投票は、21日午前7時から午後6時まで町内14カ所の投票所で行われ、町民の皆さんが町の舵取り役を決める一票を投じました。

開票は同日午後7時30分から町民センター大ホールで行われ、各候補者の支持者などが町長の決定を見守りました。約1時間の慎重な開票作業の結果、午後8時15分に矢澤氏の当選が決定しました。選挙当日の有権者数は1462人（男710人、女752人）、投票者数は1269人（男632人、女637人）、有効投票数は1261票、投票率は86・80%（男89・01%、女84・71%）。平成23年の町長選挙の88・61%を1.9ポイントほど下回りました。

矢澤源成氏に対する当選証書付

与式は、4月22日、町民センター視聴覚室で行われ、町選挙管理委員会の板橋徳美委員長から当選証書が手渡されました。板橋委員長は「少子高齢化対策をはじめ、町を取り巻く状況は課題が山積しています。町民の夢と希望の思いを胸に、町民の負託に応えられることを望みます。」と述べました。

再選を果たした矢澤氏は「県立宮下病院を核に医療福祉を充実させ、若者の定住を図ります。自然や環境に優しい循環型の社会を目指します」と決意を新たにしました。任期は5月17日から4年間で

当日有権者	1,462人
期日前投票者	464人
投票所における投票者（不在者投票を含む）	805人
棄権者	193人
投票総数	1,269票
投票率	86.80%
有効投票票	1,261票
無効投票票	8票

三島町空き家バンクについて

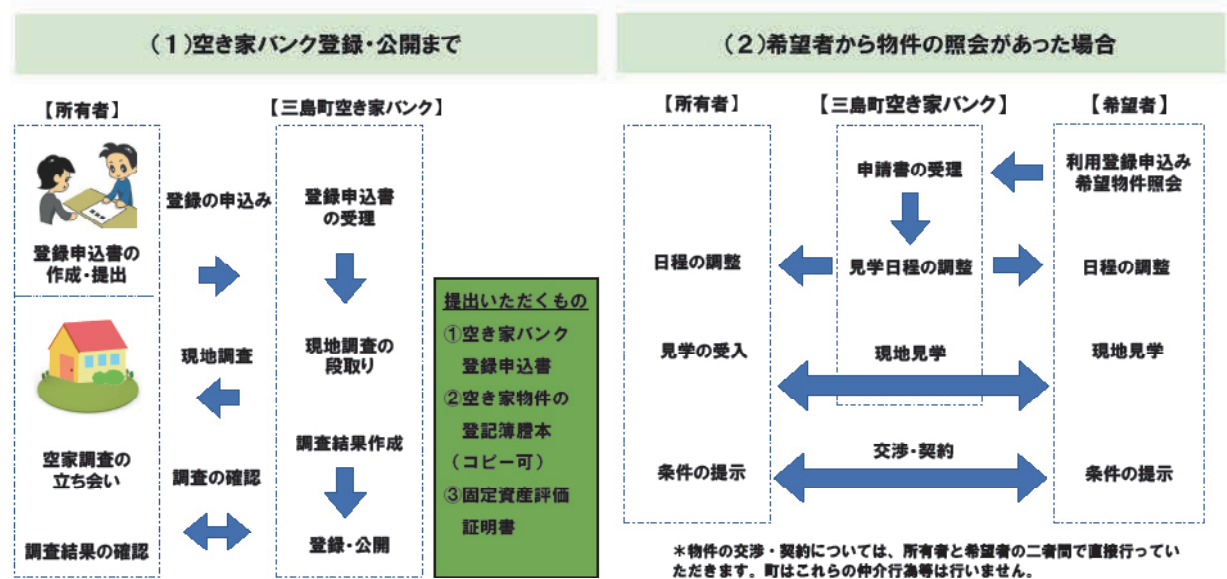
三島町空き家バンクとは、三島町の空き家物件のうち所有者等に利活用の意向がある物件の情報を集約し、町内外の空き家利用希望者や移住希望者に対して情報提供を行い、空き家利活用による移住・定住の促進による地域の活性化を図るものです。当町では平成 28 年度より空き家バンクを運営しており、空き家利活用の意向のある物件情報を町のホームページを中心に会津版、福島県版、全国版の空き家バンクサイトにも掲載しています。



これまでの登録物件数	11件
契約成立物件	5件(売却3件／賃貸2件)
現在掲載中物件	3件(売却3件／うち1件は賃貸も可)
空き家バンク利用申し込み者数	12名
*電話のみの方、町内在住の方は含みません。	

空き家バンクの流れ

平成31年3月現在



空き家の利活用に
ご協力をお願いいたします！！

近年の田舎暮らしへの関心の高まりに合わせて、三島町でも移住相談や空き家への問い合わせが年々増え、空き家の解消や人口増加による地域活性化に期待が持てる状況になりつつあります。昨年度は、移住相談が20件ほどあり、そのうち3名の方の移住が決まりました。

しかしながら、当町では賃貸物件はほとんどなく、また町営住宅も常に空きがないため、移住定住希望者に物件紹介ができず、話が進められない状況にあります。そのため、町営住宅の整備と合わせて、空き家等を活用した住居の確保が課題となっています。

昨年度の空き家利用意向調査の結果、利活用の意向のあった物件に関しては今後再調査し、空き家バンク（次ページ参照）に掲載していく予定ですが、移住定住促進をより推進していくにあたり、さらに多くの利活用できる空き家の掘り起こしが必要となっています。

空き家の利活用には所有者の皆さまのご理解とご協力が不可欠です。この機会に、ぜひ空き家の利活用について、前向きにご検討ください。

三島町の空き家状況（平成 30 年 11 月時点）

*空き家とは、日常的に居住していない家屋であり、所有者が日常的に居住せず、年数回、定期的に利用している場合も含みます。

地区	宮下	荒屋敷	桑原	大登	川井	桧原	滝谷	大谷	浅岐	間方	西方	大石田	名入	小山	高清水	滝原	早戸	合計
全戸数	145	22	22	44	43	55	49	56	26	39	130	62	44	6	19	17	24	803
空き家戸数	36	5	5	14	6	13	10	18	5	13	30	10	13	2	2	2	8	192
空き家率	25%	21%	23%	32%	14%	23%	20%	32%	19%	33%	23%	16%	29%	33%	11%	12%	31%	24%

平成 25 年度に 14%ほどだった空き家率は年々上昇傾向にあり、現在は 24%（4 軒に 1 軒が空き家）となっています。

新しい地域おこし協力隊を紹介します



出身地：東京都
配属先：会津桐タンス株式会社
趣味：太極拳・雑貨屋さん巡り
今年目標：桐をよく知ること

4月より地域おこし協力隊として、会津桐タンス株式会社に勤務しています。桐タンスのどっしりとした姿に惹かれ、憧れを持ち三島町で大切に継承されてきた文化や技術を学び、後の世代へ伝えていきたいという思いで来ました。話しをすることが好きなので、声をかけていただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。

※写真左上より、時計回りで

- 山口泰市郎（2018年4月～）2年目
配属先：桐の里産業株式会社（農業振興）
- 吉垣絵梨子（2018年4月～）2年目
配属先：地域政策課（移住コーディネーター）
- 梅津汐夏（2018年5月～）2年目
配属先：観光協会（観光振興）
- 植村明恵（2019年4月～）1年目
配属先：会津桐タンス株式会社（桐タンス職人）

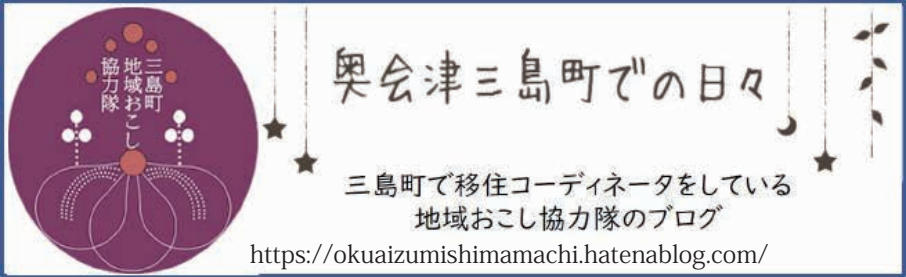
※任期は最長3年まで



5月現在、三島町では4人の協力隊が活動をしています。月替わりでコーナーを担当し、活動内容の報告やそれぞれの想いを書かせていただきますので、読んでいただけたらと思います。また、町で見かけたりした際は、お気軽にお声かけください。

協力隊コーナー Vol.1

地域おこし協力隊2年目の吉垣絵梨子です。地域政策課で移住コーディネーターとして、町の空き家調査や移住希望者の相談業務などを行っています。神奈川県川崎市より三島町に来て1年が経ちました。今年は雪が少なかったことも幸いして、大好きな冬の日々は毎日キラキラしていて、スキーなどの雪遊びをしているうちに、あっという間に楽しく過ぎていきました。嘸も嘸もほど美味しいスルメのように、ゆるやかにだんだんと見えてくる町の魅力や暮らしぶりにどんどん引き込まれ、町のことや暮らしのことをもっと知りたい、そして伝えていきたいと思い、1月よりブログを始めました。田舎暮らしにあこがれてゆくゆくは農を中心とした暮らしをしていきたいと思っている一移住者、一協力隊の個人的な記録であることをご了承くださいながら、時々のでいてもらえたらうれしいです。新年度もどうぞよろしくお願いいたします。



次号より移住者インタビューを掲載していきます。このブログに移住者インタビューを載せているのですが、移住者の中には空き家に住まわれている方も多くいます。空き家が利活用され、移住者の方が三島町で充実した日々を送っている様子をお伝えすることで、空き家所有者の方が空き家利活用に踏み出すきっかけの一つとなればと思っています。また移住者の方それぞれに現在にいたるまでの物語があり、様々な想いがあるので、彼らのお話を通して、新たに三島町の魅力発見や様々なヒントにつながったらいいなと思っています。空き家が循環することで、人が循環し、町全体がもっと活性化していったらいいというのが、担当する私の想いです。

移住者
インタビュー
連載します！

令和元年度三島町空き家・住宅取得改修費等補助金の申請を随時受付中！

町では、移住・定住の促進、集落の維持・活性化、景観の保全等を図るため、空き家の取得・改修・解体、住宅の新築・改修に係る費用を補助します。
※空き家とは、日常的に居住していない家屋であり、所有者等が日常的には居住せず年数回定期的に利用している場合も含みます。

区分	①空き家の取得・改修		②住宅の新築	③住宅の改修	④空き家の解体
	移住・定住	地域活動促進			
補助の対象	移住・定住に伴う町内に存する空き家の取得・改修（5年以上の定住を伴う場合に限る）	地域活動等での使用を目的とする町内に存する空き家の取得・改修（5年間の利活用計画が策定されている場合に限る）	移住・定住（町外人口流出抑制に資する場合を含む）に伴い、5年以上定住するための住宅の新築	新たに世帯員の増加を伴い、かつ改修後5年以上定住するための町内に存する住宅の増築を伴う改修	利活用の見込みのない空き家や倒壊等のおそれのある町内に存する空き家の解体（所有権を除く物権又は賃借権が設定されていないものに限る）
補助対象者	①空き家の所有者（購入者の場合は売買契約書が必要） ②空き家の借主（所有者の同意・賃貸借契約書が必要） ③①の相続人（子、孫など。複数人の場合は確約書が必要） ※町税、使用料等の滞納がない者		①住宅の施工主 ※町税、使用料等の滞納がないもの。	①住宅の所有者 ②①の相続人（子、孫など。複数人の場合は確約書が必要） ※町税、使用料等の滞納がない者	①空き家の所有者 ②①の相続人（子、孫など。複数人の場合は確約書が必要） ③委任者（委任状が必要） ※町税、使用料等の滞納がない者
補助対象経費	①工事請負費 ②住宅取得費用 ③調査設計費 ④家財処分費（補助金上限額のうち上限25万円） ⑤その他、町長が必要と認める経費 （対象外経費） ・蔵や倉庫、車庫等の付属構築物 ・解体の場合、空き家の一部利活用のための一部解体 ・新築又は改修の場合、土地購入費 ・補助金の交付決定前に着手した工事				
補助金の額	補助対象経費の3分の2以内（千円未満の端数切捨て） ①町外から住民票の移動を伴う移住者（住民票の移動日から2年以内のもの） 上限150万円 ②町内で住民票の移動を伴う転居者 上限100万円	補助対象経費の3分の2以内（千円未満の端数切捨て） 上限100万円	補助対象経費の3分の2以内（千円未満の端数切捨て） ①町外から住民票の移動を伴う移住者（住民票の移動日から2年以内のもの） 上限150万円 ②町内の事業者を利用した新築の場合 上限150万円 ③町外の事業者を利用した新築の場合 上限100万円	補助対象経費の3分の2以内（千円未満の端数切捨て） 上限100万円	補助対象経費の3分の2以内（千円未満の端数切捨て） 上限75万円
留意事項	・1申請者につき申請1回となること。 ・原則として、町内の事業者により改修、新築又は解体を行うこと。 ・空き家の取得・改修又は住宅の新築・改修の場合、改修又は新築後5年間は町への経過報告が必要となること（補助金返還となる場合あり）。 ・解体工事費の基準単価は、15,000円／㎡を上限とする。 ・空き家の取得か住宅の新築を申請する方で「福島県来てふくしま住宅取得支援事業」の対象要件（県外からの移住）に該当する場合、補助の額が加算されます。				

三島町消防団長に小島純さん(宮下)



矢澤町長より辞令を受ける小島純さん

三島町消防団長を2期4年務めた二瓶義徳さん(間方)が3月31日で退任し、4月1日より副団長の小島純さんが新団長に就任しました。小島さんは昭和52年4月に入団し、27年間に渡り消防団活動に尽力されました。平成16年4月からは消防団本部へと昇任し、訓練部長や第二分団長などを歴任しました。小島さんは「重責に身の引き締まる思いです。安心・安全な地域づくりの期待に応えられるよう、団員が一致団結し予防消防に取り組みます」と話しました。

令和元年度 三島町消防団本部役員

階 級	氏 名	地 区
団 長	小 島 純	宮 下
副団長	五十嵐 健 二	宮 下

第 一 分 団		
階 級	氏 名	地 区
第一分団長 (訓練部長)	近 藤 勇 彦	宮 下
第一副分団長	五十嵐 文 義	高清水
第一副分団長	小 柴 信 人	名 入

第 二 分 団		
階 級	氏 名	地 区
第二分団長	大 竹 克 昌	滝 谷
第二副分団長 (副訓練部長)	青 木 厚	西 方
第二副分団長 (車両部長)	角 田 智 義	川 井

町内全地区をパレード 三島町春季火災予防運動

春季火災予防運動期間(4月5日から4月11日まで)に合わせて平成31年度春の防火パレードが4月7日に行われました。消防団の宮下班の消防ポンプ自動車、川井班と滝原・早戸班の小型ポンプ付積載車2台など消防車両が車列をつくり町内全域を回り、火災予防を呼びかけました。空気が乾燥しやすい季節ですので、より一層の火災予防啓発活動に励みます。



火災予防を呼びかける消防車両

宮下地区無火災祈願祭 大火の惨事を忘れずに

宮下地区の無火災祈願祭は4月11日、三島神社で行われました。昭和17年4月11日に発生した大火では、宮下地区のほとんどの家屋が焼失し、焼け野原となりました。その惨事を忘れないように、毎年この日に町内の無火災を祈願しています。祈願祭では青木基重宮司の祝詞奏上、お払いの後、町消防団や宮下地区、各事業所の代表の方などが玉ぐしをささげ、無火災と生活の安全を祈りました。



三島神社で行われた宮下無火災祈願祭

交通事故死者ゼロ 3,500 日を達成

4月4日、町民センターにおいて交通事故死者ゼロ3,500日表彰式が行われました。

平成31年3月31日をもって3,500日を達成し、守岡文浩会津地方交通対策協議会長(会津地方振興局長)より、矢澤源成三島町交通対策協議会長に表彰状が贈られました。交通安全関係団体の方々、日頃より児童生徒・高齢者の安全を見守ってくださった関係者の皆様、そして町民一人ひとりの交通安全に対する高い意識が実を結びました。今後も関係機関、各団体との連携のもと、4,000日、4,500日を目指して、交通事故を防ぐための取り組みを継続していきます。



関係機関、交通安全関係団体の皆さん

町の交通安全の要です 交通教育専門員を栗城功さんに委嘱

交通教育専門員に栗城功さん(宮下)が委嘱されました。委嘱状の交付は4月4日、役場で行われ、矢澤町長から栗城さんに委嘱状が手渡されました。交通教育専門員は、児童・生徒の登下時などの安全指導や交通教室でのルール指導、街頭での交通安全指導などを行います。任期は3年で、栗城さんは平成25年から務めており3期目となります。



委嘱状を手にする栗城功さん

しっかり守ろう交通ルール 三島小交通安全教室

三島小交通安全教室は4月10日に行われ、全校児童が参加しました。当日は雨の為、屋外での教室はできませんでしたが、三島駐在所の森建介所長が、自転車に乗る際の注意点などについて講話と交通安全教則DVDの観賞を行いました。続いて「家庭の交通安全推進員」に全校児童が委嘱され、代表して片山千愛さん(小6)に委嘱状が手渡されました。



委嘱状を受け取る片山千愛さん

横断歩道は手をあげて 三島保育所交通安全教室

4月24日、三島保育所において交通安全教室が開催されました。三島駐在所の森建介所長より道路を歩く際の注意点などの講話がありました。続いて、子ども達は、外に出て実際に道路の歩き方や横断歩道のわたり方を勉強しました。先生に付き添われながら、大きく手を上げて横断歩道を渡り、交通ルールを守った通行を実践しました。



横断歩道をわたる保育所の子ども達

📷

新たな生活工芸伝承生の誕生
3 人の伝承生によるものづくり文化の継承

生活工芸伝承生への辞令交付式が4月2日、町長室で行われました。昨年度から引き続き坂井智子さんと井口恵さんが、そして、今年度から新たに西山明代さんが伝承生として活動します。生活工芸伝承生は、生活工芸アカデミーでの経験を生かし、生活工芸技術の保存、資源の調査研究、産地としての振興策の検討、アカデミー事業の運営補助などを主な活動内容としています。



(左から)
坂井智子さん、西山明代さん、矢澤町長、井口恵さん



第1回保健推進委員の様子

📷

保健推進員に 28 人を委嘱
第1回三島町保健推進員会

4月12日、平成31年度第1回保健推進員会が町民センターで開催されました。会長に佐藤美智子さん（宮下）、副会長に馬場光子さん（大登）が選出され、これからの2年間、健診の受診勧奨、健診受付、乳幼児健診、育児サークルなどへの協力などのほか、各地区で開催される「健康ミニフォーラム」など、様々な活動をしていきます。健康に関する相談がありましたら各地区の保健推進員へお声掛けください。

三島町保健推進員

地 区	氏 名	備 考	地 区	氏 名	備 考
宮 下	佐 藤 美智子	会 長	浅 岐	五十嵐 市 子	
	細 堀 信 子		間 方	舟 木 富士子	
荒屋敷	久保田 千枝子			二 瓶 朋 子	
	武 岡 優 里		西 方	小 松 ユミ子	
桑 原	二 瓶 とよ子			北 舘 緑	
大 登	馬 場 光 子	副会長	大石田	五十嵐 豊 子	
	渡 部 久 恵			川 島 リツ子	
川 井	長谷川 洋 子		名 入	小 柴 イセ子	
	長谷川 ノブエ			二 瓶 弥 生	
桧 原	片 山 春 子		高清水	横 田 ミチヨ	
	五十嵐 スミ子		滝 原	佐久間 絹 江	
滝 谷	目 黒 京 子		早 戸	橋 本 洋 子	
	星 貞 子			木ノ戸 美 和	
大 谷	諏 訪 典 子				
	五十嵐 乃里枝				

📷

清く美しい心を持つ生徒に
三島中に 6 人が入学 全校生徒は 23 人

三島中入学式は4月8日に行われ、男子5人、女子1人、計6人が中学の門をくぐりました。新一年生は少し大きめの制服に身を包み、緊張した様子で式に臨みました。関根宏房校長が「清く美しい心で、互いに切磋琢磨し合い、夢を持ちその実現に向けて努力することが大切です」と式辞を述べました。新一年生を代表し齋藤美那さんが誓いの言葉を述べ、在校生を代表して板橋唯さんが歓迎の言葉を述べました。



誓いの言葉を述べる齋藤美那さん



新一年生
(左から)布川琉生くん（宮下）、鈴木蓮くん（滝谷）、五十嵐悠月さん（宮下）

📷

3 人の新入生を温かく祝福
三島小に 3 人が入学 全校児童は 30 人

三島小入学式は4月8日に行われ、男子2人、女子1人、計3人が入学しました。新一年生は名前を呼ばれると元気に返事をし、黄色い帽子を受け取りました。藤田雅也校長は、「みしま運動」として「みんな笑顔であいさつ」、「しっかり後片付け」、「まもろう安全」の3つの三島小の約束を教えました。また佐藤孝信教育長は保護者の方々に対し、「家庭と学校がしっかりとスクラムを組んで、それぞれの役割を認識し、仲良く手を取り、互いに信頼し合っていたきたい」と話しました。

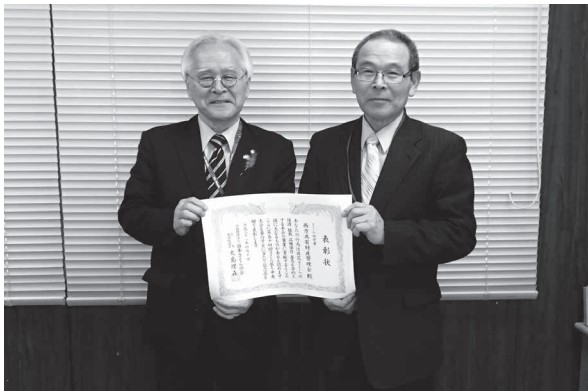
📷

みんなで元気に仲良く遊ぼうね
三島保育所に 38 人が入所

三島保育所入所式は4月4日に行われ、きりん組（5歳児）11人、ぱんだ組（4歳児）4人、うさぎ組（3歳児）11人、大りす組（2歳児）5人、小りす組（1歳児）7名の計38人が入所しました。大竹真理子所長は「保護者の皆さんが安心して子どもを預けられる場所となるよう職員一同、一生懸命に努めます」と話しました。



お母さんやお父さんに付き添われて入所した子供たち



矢澤町長に受賞の報告をする
二瓶辰雄西方共有財産管理会長

📷

日本さくらの会 功労者表彰
西方共有財産管理会

4月10日、東京都において第54回さくら祭り中央大会が開催され、西方共有財産管理会が「さくら功労者」として表彰を受けました。この表彰は、さくらの植栽・愛護・研究・その他、さくらの振興事業に関し顕著な功績があった団体等を表彰しています。西方共有財産管理会は大林ふるさとの山を管理しており、地区住民が主体となってさくらの保護や育成に努めている点が評価を受けました。大林ふるさとの山には約400本のオオヤマザクラがあり、一年を通じて管理や植栽を行っています。

📷 早戸地区の大山祇神社、温泉神社でも春祭り 文・写真 橋本光五郎さん（早戸）

さる4月13日の午後、早戸地区の大山祇神社と温泉神社において、例年通り春祭りが執り行われました。当日は両神社とも鳥居のしめ縄を新しくかけ直し、青木基重宮司の祝詞奏上の後、地区の代表者が玉串を奉奠し、今年一年の地区内の安全、地区住民の家内安全、温泉の安全、そして豊作を祈りました。



📷 地区住民によるカタクリ整備作業 文・写真 本名与四郎さん（西方）



3月30日、午前9時より大林公園ふるさとの山のカタクリ整備作業が行われました。当日は朝から天候に恵まれ、北館区長の挨拶が終わると、さっそく整備作業に取りかかりました。カタクリを傷つけないように両サイドを細いひも（ロープ）で歩道を分かりやすくしたり、進行方向を示す看板を立てたりしました。今年 は例年になく積雪が少なかったにもかかわらず、3月中旬頃から朝夕の寒い日が続く、大林公園のいたるところに残雪があり、桜とカタクリの開花は1週間以上遅くなっている様子でした。

「カタクリ・さくらまつり」は、4月10日から14日までの開催ですが、毎年、カタクリとさくらのコラボレーションを楽しみにして訪れている来客者は、町からの情報を得ながら、整備作業中にも訪れている姿も見られました。

📷 カタクリ・さくらまつり観光客で賑わう 文・写真 本名与四郎さん（西方）

4月10日から14日までの5日間、西方大林公園において、「カタクリ・さくらまつり」が開催されました。今年 は、例年になく積雪量は少なかったものの、日陰になっている雪解けが遅く、2ヘクタールに及ぶカタクリの花や大山桜の咲く山の斜面にも雪が残っているために、5,6分咲きとなっていました。それでも毎年楽しみにしている観光客は、デジタルカメラを片手に春の日差しを浴びながら力強く生育している紫色のカタクリの花を写真に収めていました。また、「カタクリ・さくらまつり」が終了しても、町観光協会が管理棟で軽食やコーヒーなどを提供し来客者を歓待していただきました。



📷 早戸地区の「花見の会」を開催 文・写真 橋本光五郎さん（早戸）



4月20日、花見の会が開催されました。昨年は22日に開催して満開での花見の会となったことから、3月に「この陽気ならば今年も早く咲くのでは」という予想を立てて20日開催としたのですが、予想は外れてしまい、生活改善センター周辺の桜はほとんどが蕾の状態。少し残念な花見の会となってしまいました。しかし、今年 は初めての試みとして、早戸地区以外に居住している出身者の方々にもお声をおかけしたところ、5名の方に参加いただき、総勢24名での賑やかな会にすることができました。久しぶりに会う方や、初めて顔を合わす方などもおられ、用意したお弁当を食べ、お酒も飲み、差し入れてくださったお菓子なども食べながら、会話も楽しく弾み、最後はカラオケで歌も歌い、非常に良い会になったのではないかと感じました。

📷 町民記者通信 📷

📷 平成最後の春日神社春祭り 文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）



4月12日、桧原地区の春の例大祭が、春日神社本殿において執り行われました。神社役員4名により早朝6時から、参道及び本殿内の清掃とのぼり旗を掲げ準備されました。午前11時30分、青木基重宮司を迎え地区役員と氏子の計10名が参列し開催されました。始めに青木基重宮司より退任の挨拶があり、62年間の宮司として大変思い出多い日々を過ごすことが出来たことに対し、感謝の言葉がありました。なお、後任は御子息が対応するとの事です。また、祭典は厳粛に執り行われ、神社総代長の阿部通利さんにより玉串奉奠が行われ、地区の繁栄と五穀豊穡を祈願しました。終了後は直会を行い、参加された皆さんで親睦を深めました。

📷 春の観音講総会及び例祭 文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）

4月16日、平成最後の「観音講」が行われました。早朝6時より会員17名の内13名が参加され、のぼり旗取付け、境内の清掃、本堂の飾り付けを実施しました。午後1時より平成30年度の事業報告と決算報告があり今年も例年通り事業を実施するとの報告がありました。その後、例祭が開催され感謝の御詠歌を歌いながら日々の生活の安泰や安産、五穀豊穡を観音様に祈願しました。終わりに直会を実施し、お酒やお茶を飲みながらお互いに健康長寿を願い、世間話で大変盛り上がり楽しい時間を過ごしました。



📷 春を告げる「大神楽」公演 文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）



4月21日、恒例の「柳津藤の和大神楽」が公演されました。例年は集会所で実施されていましたが、今年 は地区集会所の改修工事のため、地区内3箇所（片山一雄宅前、片山敏幸宅前、旧桧原分校跡）で盛大に開催され地区の皆さん約60名が来場されました。午前9時より各組ごとに御札を配り、無病息災と地区の繁栄を願いながら「神楽音」を響かせました。その後、各箇所で行った様々な演目が披露され、地区の皆さんの大きな笑い声と拍手が響き渡り楽しい時間を過ごしました。

📷 春の道普請行われる 文・写真 佐久間絹江さん（滝原）

4月14日、地区住民13名による、美坂山登山道、駒形神社前グラウンドゴルフ場、地区内の共同作業道の道普請が行われました。積雪により崩れた箇所や倒木などで傷んだ道を手直しし、山登りや作業のしやすい道が出来上がりました。滝原地区も高齢化が進み人足に参加できない方々が増えてきましたが、町を離れて住んでいる家族の方々のご協力で行われました。ありがとうございました。



健診のメリット

- ①毎年検診を受けることで、自分の体調の変化や生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常症等）の早期発見、悪化の予防・改善ができます。
※国保被保険者で平成30年度に脳卒中を発症した方は2人で、どちらも健診未受診の方でした。
- ②毎年健診を受けることで、医療負担が少なくなる傾向にあります。
三島町の平成30年度の1人当たりの医療費を比較してみました。

【国保被保険者】

健診未受診者	健診受診者
35,925 円	9,458 円

※健診受診、未受診者の生活習慣医療費 / 健診対象者数（生活習慣病患者数）

○特定健診

- ・身体測定（身長、体重、腹囲測定）
- ・血圧測定・尿検査・心電図・眼底検査（眼科に通われている方は行いません）
- ・血液検査・医師による診察（健康について困っている事などをご相談ください）

○若年健診

- ・特定健診から尿中アルブミン検査を除いた内容

○各種がん検診

※施設検診、人間ドック、胃がん（胃カメラ）検診、子宮がん検診、乳がん検診につきましては、詳細が決まり次第お知らせします。



「みしま健康ポイント」の
対象（3ポイント）です！！

図書のご案内

●今月のおすすめ

『愛なき世界』 作：三浦しをん



主人公の藤丸が恋した相手は三度の飯より植物の研究が好き！サボテンを巨大化させる後輩や殺し屋風の教授など変わり者たにち囲まれながら主人公の恋はどうなっていくのか…？本屋大賞ノミネート作品です。

○利用時間

月～金 午前9時～午後9時
※年末年始は閉館いたします。

土・日・祝 午前9時～午後5時

『世界でいちばんやかましい音』

作：ベンジャミン・エルキン
絵：太田大八



ガヤガヤの都で一番やかましいことの好きなギャオギャオ王子さまは「もっともっとやかましい音が聞きたい」と思って…

題 名	著 者
居た場所	高山羽根子
具体と抽象	細谷 功
おどる認知症	岸 香 里
ベルリンは晴れているか	深 緑 野 分
宝島	真 藤 順 丈

●新着本●

問 公民館 ☎ (48) 5599

町史編さん室だより

第40回

もし、ご家庭に古い文書などがございましたら、
交流センター山びこまで一報ください。
☎ (52) 2165

会津桐の殖産と小松中正

先月、令和六年（二〇二四）に紙幣（日本銀行券）を刷新すると大きく報道されました。そのなかで新一万円札の肖像として採用を予定されているのが「日本資本主義の父」などと称され、数多くの企業の設立や経営にたずさわった、実業家・渋沢栄一氏です。

西方地区には彼の書を刻んだとされる石碑があります。生涯学習センター（旧西方小中学校）前の道路を挟んだ場所にある「偉人 小松中正翁」と書かれた大きな石碑が渋沢氏の筆とされており、脇にある「青洲」というのは氏の雅号です。

小松中正氏は文久元年（一八六一）、西方に生まれ、長じてからは叔父である佐久間忠吉氏と共に、桐の殖産に尽力しました。改良した桐の苗を明治十年～三十年（一八七七～一八九七）頃に十数万本つくり、会津各地に民間には一本二～三銭で、公共団体には無償で提供したといえます。会津が桐の大生産地になったことに深い影響を持つ人物です。

商業の分野においても桐下駄種の製造販売に関わり、また大正五年（一九一六）の一市五郡桐材下駄種卸商組合、昭和初期における会津桐材商同業組合の設立にも力を尽くしました。中正氏の下で桐下駄種の製造に従事した人物の追悼文には『買う身になって造れ』『自信ある誇りある品を造れ』『好況に向ふ時更に吟味せよ』と、此の言葉この信条を何時も、口喧しく申されました」とあり、ものづくり・商売に対する氏の姿勢がうかがえます。

このような中正氏の偉業を称え石碑を建立しようとする動きが大正十年代に計画されました。碑文の揮毫については、若松出身の上京者で中正氏の相談相手であった齋藤熊三郎氏なる人物と渋沢氏との縁によって生まれたようで、齋藤氏が中正氏の生い立ちや事業について渋沢氏に話し揮毫を依頼したところ快諾され、その碑文は齋藤氏を介し中正氏に郵便で送られた、との経緯が『中正誌』という遺稿・追悼文集に書かれています。



小松中正翁の碑

参考文献

『中正誌』 小松中正翁顕徳碑建設会 昭和十五年刊行
※引用部分にはルビを振り、読みやすくしています。

文 三島町史編さん室

令和元年度 県立宮下病院の診療体制について

福島県立宮下病院長 浅野 宏

日頃より、当院の病院事業に対して多くのご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年度県立宮下病院診療体制をお知らせします。今回の人事異動で、小山大輔医師と五十嵐亮医師が異動となり、新たに牧匠医師が転入となりました。会津医療センターからは、今年度も多くの診療応援いただき、下記のとおり診察科目を開設いたします。

今年度も「へき地医療拠点病院」として、「心ある医療」の実践を目指し、地域医療を堅守すべく努力して参ります。また、毎週木曜日には介護・医療などに関する相談をお聞きする「愛ばんしょ外来」を本年も行いますので、ぜひご利用ください。

○令和元年度の診療体制

診療科	開設曜日		医 師 名	
			午 前	午 後
内 科	月曜日		佐 藤 悠	牧 匠
	火曜日	第 1 週	牧 匠	渡 邊 孝一郎 (会津医療センター)
		第 2 週	畠 田 一 司	
		第 3 週	牧 匠	
		第 4 週	畠 田 一 司	星 野 弘 尊 (会津医療センター)
	水曜日	第 1・3 週	宗 像 源 之 (会津医療センター)	
		第 2・4 週	佐 藤 悠	
	木曜日	第 1・3 週	牧 匠	牧 匠
		第 2・4 週	長谷川 浩 司 (会津医療センター)	
	金曜日		佐 藤 悠	牧 匠
外 科	月・火・木曜日		浅 野 宏	
	第 4 金曜日		福島県立医科大学	
整 形 外 科	第 1・3 水曜日		高 橋 洋二郎 (会津医療センター)	
	第 2・4 水曜日		岩 淵 真 澄 (会津医療センター)	
心身医療・もの忘れ 外来※ 1	第 1・4 火曜日		西 郷 佳 世 (会津医療センター)	
	第 2 火曜日		國 井 泰 人 (会津医療センター)	
耳 鼻 咽 喉 科	第 1・3・5 月曜日		小 野 美 穂 (会津医療センター)	
	第 2・4 月曜日		小 針 健 大 (会津医療センター)	
皮 膚 科	第 1・3 木曜日		鈴 木 重 行 (会津医療センター)	

※ 1 「心身医療・もの忘れ外来」について、初診の方は事前にお問い合わせください。

愛ばんしょ外来のお知らせ



「みしま健康ポイント」の対象です！

宮下病院では、毎週木曜日「愛ばんしょ外来」（在宅療養生活支援外来）を開設しています。

病気や障がいを抱えて家で生活する方や、家族からの介護や生活についての相談窓口

地域に住む方々が気軽に立ち寄れる交流場所の提供

季節の変わり目は体調が崩れやすい時期です。
室温調整、休養、手洗い、うがいをしましょう。

地域に住む方々の健康維持・増進、介護・疾病予防のための支援

などを目的に、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフが皆様の在宅生活のためのお手伝いをさせていただきます。



月 日	内 容
5 月 9 日 (木)	・相談コーナー ・健康教室「ハチ刺され、ヘビ噛まれ」（講師：看護師）
5 月 16 日 (木)	・相談コーナー ・健康教室「乳酸菌のおはなし」（講師：管理栄養士）
5 月 23 日 (木)	・相談コーナー ・健康教室「和菓子のお話」（講師：看護師）
5 月 30 日 (木)	・相談コーナー ・健康教室「春が旬のたべもの」（講師：管理栄養士）

・相談コーナー 午前 9 ～ 12 時、午後 1 時～ 4 時 ・健康教室 午前 10 時 30 分～ 11 時

・場 所 宮下病院 外来待合室等

（健康教室の内容は変更になる場合があります）

費用は無料です。どなたでもご利用できますので、お気軽にお越しください！
（相談コーナーと健康教室は予約不要です）



会津坂下警察署からのお知らせ

「改元サギ」に注意！

金融機関の職員等を装い、「元号が変わるので今のキャッシュカードが使えなくなる。」「職員が家に行くのでキャッシュカードを渡して」などと言ってキャッシュカードをだまし取り、ATMで現金を引き出す手口のオレオレ詐欺が派生しています。

被害防止のポイント

○元号が変わってもキャッシュカードはそのまま使用可能です。交換などの手続きは必要ありません。

○金融機関の職員や警察官等が暗証番号を聞いたり、キャッシュカードを取りに行く事はありません！



三島駐在所員を紹介します

4月の人事異動により三島駐在所に新しい警察官が着任しました。三島町の安心・安全を守る警察官を紹介します。



もり けんすけ
森 建介 39歳

出身地：南会津町
(旧南郷村)
前任地：喜多方警察署
趣味：ゴルフ、剣道

三島町の皆さん、こんにちは。今年度より三島駐在所に勤務することになりました。三島町は初めての場所なので、わからないことが多いです。町で見かけた際にはお気軽にお声を掛けていただき、町の事をいろいろと教えてください。よろしくお願いします。



消防署からのお知らせ

野火・林野火災に注意しましょう！

火事と救急は119番
三島町消防団
会津坂下消防署三島出張所
電話 52-3032 F A X 52-3033

少しずつ気温が高くなり、雪解けとともに野火火災が発生しやすい季節になりました。

この時期に野火火災が多いのは、積雪がなくなり、他の月に比べて降水量が少なく、空気が乾燥しやすい環境となっていることと、枯れた下草が乾燥した状態で残っており、一旦火がつくと燃え広がりやすくなるためです。

また一般家庭でのごみ焼却（野焼き）は、一部例外を除き法律で禁止されていますので注意が必要です。

◆野火・林野火災防止の注意点

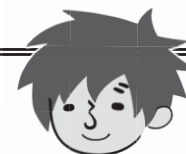
- ・枯れ草等のある火災が起こりやすい場所ではたき火をしない。
- ・喫煙は、指定された場所で行い、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てない。
- ・バーベキューなど火を使用する場合には、完全に消火する。・入山する際はあらかじめ行き先、ルートを確認し、家族に行き先を伝えておくこと。
- ・天気予報に気を配り、防寒対策を徹底すること。無理な入山は控えましょう！

たき火などで著しい煙の発生や、大きな火災を発生おそれがある場合は、火災予防条例に基づく消防署への届出が必要となります。

なお、この届出は、事前に焼却行為を把握し、誤報により消防機関が出動するなどの混乱を避けるためのものであり、届出を受理することにより、他の法令に係る焼却行為を許可するものではありません。

環境研だより 第10回「三島町で行っている研究について」

国立環境研究所福島支部 地域環境創生研究室



しぶしぶくん

三島町のみなさま、こんにちは。今回は国立環境研究所が三島町で行っている研究について、福島支部の林誠二研究グループ長にお話を伺いました。



国立環境研究所福島支部 林誠二研究グループ長

Q. 三島町ではどのような研究をしているのでしょうか？

私自身は、森林流域でどのような物質循環が起こっているかをずっと研究しており、その中で日本の多くの森林が荒れていて、それらが水や物質の循環に大きく影響していることに気づきました。このような問題は、奥会津地域や三島町でも当てはまっていて、荒れてしまった森林とどうやって付き合っていくのか、どのように健全な状態にしていくのが重要だと思っています。

福島支部と三島町さんが一緒に研究している大きな目的は2つありまして、ひとつは森林を資源として使えないか、もうひとつはしっかりと森林を管理することで、土砂災害を軽減できないかということです。大規模な豪雨によって土砂災害が起こった時、間伐などをしていない状況と管理している状況を比べれば、管理している方が被害や復旧費用を小さくすることができると考えています。

これらの課題を別々に考えるのではなく、災害に脆弱な森林をしっかりと管理し、間伐等に出てきた材を地域資源として活用することで、森林の管理も進んで災害にも強くなる、というように2つの課題が共に良くなっていく取組が可能かどうか現在研究をしています。

Q. 実際に三島町で林さんが行っている研究はどのようなものでしょうか？

森林管理の有無によって雨や雪解けの際に水、土砂の出方（流出）がどう変わっていくか？というところに興味があるので、私自身も町内で観測しています。

たとえば、昨年12月に町役場や地元からご理解とご協力をいただき、大石田地区の壇子沢に観測装置を設置して、水の量や濁りあるいは雨の量や風の強さなどの気象項目を連続的に測定しています。観測したデータを元に、将来的に大きい雨があったら、どのくらいの水や土砂が出てくるのかを計算したいと考えています。この研究は福島大学、東北大学、東京農業大学、大阪大学の先生たちにも入ってもらい、一緒に取り組んでいます。

Q. 三島町にどのような印象をお持ちですか？

最初に訪問した際のイメージが一番強く、とても印象深く思ったのは「お米が美味しい」という事です。きっと良い水を使って丁寧に作られているのだなと思いました。

それと桐が名産ですね？さすがに筆筒は難しいですが、いつか桐のまな板が欲しいなと思っています。

<筆者紹介>

常盤 達彦（ときわたつひこ）

埼玉県出身で平成28年～30年まで三島町地域おこし協力隊として活動していました。環境研がどのような活動をしているのかわかりやすく伝えていきたいと思っています。



●内容に関するお問合せ先

国立環境研究所福島支部

地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

街頭犯罪発生件数（平成31年3月31日）			
区 分	管 内	三島町	
空 き 巣	1		
事 務 所 荒 し	3		
自 動 車 盗			
自 販 機 ね ら い	2		
車 上 ね ら い	1	1	
強 制 わ い せ つ	1		
街 頭 犯 罪 合 計	8	1	
そ の 他 刑 法 犯 等	9	1	
全 刑 法 犯	17	2	

特徴：昨年4月に車上狙いが多発しました。車を離れる際は、短時間でも必ず鍵をかけましょう。

全刑法犯には街頭犯罪以外（器物損壊、暴行、傷害、万引き、詐欺など）の犯罪発生件数が含まれます。※上記発生件数は、平成31年1月1日からの累計数となっています。

ご寄附 ありがとうございました

宮下地区農業集落排水 処理施設管理組合が町に寄附

宮下地区農業集落排水処理施設管理組合が本年3月をもって解散し、解散に伴う清算金を町に寄附されました。栗城徳光組合長らが役場を訪れ、矢澤町長に目録を手渡しました。



平成31年4月1日付 新規採用職員を紹介します。

新規採用として2名、福島県との人事交流で1名の計3名が入庁しました。



産業建設課長

わたなべ ひろし

渡邊 浩

51歳 大石田

4月より産業建設課に配属になりました、渡邊浩です。福島県職員として29年間、只見町職員として4年間、主に林業に関する業務に従事していました。この度、ふるさとの三島町で働くことになりました。

町出身ではありますが、わからないことも多いですので町民の皆さんにいろいろと教えていただきながら、一緒に住みやすい町を創っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

▼趣味Ⅱ読書 溪流釣り

▼今年の目標Ⅱ早く仕事になれること



産業建設課 建設係

おがわ あきつぐ

小川 晃世

39歳 会津若松市出身

今年度より、産業建設課建設係で勤務することになりました、小川晃世です。出身は会津若松市ですが、4月より町営住宅に住んでいます。まだわからない事も多いですが、一生懸命のこと、仕事を覚えて三島町に貢献していきたいです。よろしく願いいたします。

▼趣味Ⅱ絵画制作、旅行

▼今年の目標Ⅱ建設係の仕事をマスターする



地域政策課 地域政策係

うつのみや たけひろ

馬場 雄大

28歳 宮城県出身

福島県と三島町の人事交流で参りました、馬場雄大と申します。地域政策課で観光を担当させていただきます。さまざまな行事で、皆さまのお世話になることも多いかと思しますので、1日でも早く、顔と名前を覚えていただけるよう、私自身も積極的に行事などに参加していきたいと考えております。

皆さまも、お気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。

▼趣味Ⅱ登山、スノーボード

▼今年の目標Ⅱ北アルプス縦走

広報みしま 皆さんの情報提供をお待ちしています

「広報みしま」は、皆さんに親しまれる広報誌を目指して編集しています。町からのお知らせを分かりやすく伝えることはもちろん、町民の皆さんの顔、声を掲載することが最も大切と考えています。「広報みしま」は、町民の皆さんのための広報誌です。いつでも情報をお待ちしています。

役場 特命担当課 ☎（48）5511

社会福祉協議会より

サロンのご案内

▼滝谷和楽塾

5月14日（火）10時～ 滝谷集会所

▼川井友愛サロン

5月20日（月）10時～ 川井集会所

▼大登サロン

5月21日（火）13時30分～

大登生活改善センター

▼ひまわりサロン社会見学

5月24日（金） 喜多方方面

▼川井友愛サロン

6月3日（月）10時～ 川井集会所

▼滝谷和楽塾

6月4日（火）10時～ 分校グラウンド

▼サロンないり

6月7日（金）10時～ 名入集会所

▼高清水・小山いきいきサロン

6月7日（金）10時～ 高清水集会所

心配ごと相談のご案内

5月16日（木）9時30分～11時30分

福寿草

社会福祉協議会

☎（52）3344

町の人口と世帯

4月1日現在

人口	1,615	-13	出生	0
男	791	-13	死亡	4
女	824	0	転入	9
世帯	759	-9	転出	18

④住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

ご寄附ありがとうございました

町社会福祉協議会へのご寄附
ご遺志によるもの

諏訪 時男 様（浅岐）

板橋 淳也 様（滝原）

菅家 正康 様（埼玉県熊谷市）

目黒 克志 様（宮下）

大竹 利幸 様（滝谷）

5月分納税のご案内

【納期限 5月31日】

▼国民健康保険税（第1期）

▼介護保険料（普通徴収）（第1期）

問 町民課町民係 ☎（48）5555

忘れずに納付しましょう

第9回『撮』っておきの三島町

フォトコンテスト 2019 応募作品を募集中です

・作品募集テーマ

「三島町に関すること」

・作品募集期間

令和元年7月12日(金)まで

・作品展示期間・来場者投票受付期間

令和元年7月27日(土)～9月1日(日)

・応募規定

A4サイズ 1人3点まで応募可

・表彰

三島町長賞・教育長賞

「写団道奥21」会長賞

交流センター山びこ賞・特別賞

みしま賞(該当がある場合のみ)

・展示会場・作品応募先

三島町交流センター山びこ

〒969-7402 福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上418

☎0241(52)2165 Fax0241(52)2166



フォトコンテスト2018 三島町長賞受賞作品

町長日記 ～地域づくり理念の問いかけを～

No. 46

「働き方改革」が新聞紙上はもちろんです、多くのマスメディアで取り上げているのは御承知の通りであります。文明が発達し、生産技術力が向上し人間の労働時間が短縮するのは当然の方向であり、人間が労働時間から解放され自分の自由時間を獲得するのは良いことではないかと考えます。

人間は、生活するのに必要な、食や住等々の基本的な問題を心配することなく、自由自在の時間を持つことはこの上ない「至福の時」であるのではないかと考えます。

しかし、明治以降は、西洋文明に追いつき追い越せの価値を、国づくりの中心におき、本来ですと文明や文化の根底にある精神的な面の哲学や理念等々を学ぶことが必要であったと考えられますが、西洋文明の技術力に圧倒され、一つの価値である「富国」の道を進むことになったのは、歴史の証明するところでもあります。

「富国」を支えたキーワードは「教育制度を巻き込んだ勤勉」であり「社会の繁栄」そして「価値の進歩」が日本国民の価値として展開し、世界第2位のGDPまで押し上げてきたのであります。現在は中国に抜かれ3位になっていますが、地方創生の時代、それを受けての「地域づくりの時代」においても根底に流れる理念はなんら変

わっていないのではないかと危惧しているところであります。

水野和夫先生は、「国貧論」の中で、～全部近代理念に基づいて、より速く、より遠く、より合理的に～と指導されるわけですから、百害あって一利なしという方向に向かっている、そういう正念場と言えますか、瀬戸際に日本は立たされていると思っています。(近代社会のあらゆる前提が崩壊するなかで)「利賀から世界へNo.7」2015年12月」と述べています。先生は、また以下のような提案もしています。「～よりゆとり、より近く、より寛容にという延長線上で考えていくことです。時代のトレンドは今までとはおそろしくまったく逆向きなんだということです。」

地方の時代を先導する地域は、地方と都市のキーワードは「共生」です。選択と集中という考えから脱却しないと、「なぜ東京一極集中は止まらない?」と毎年のように報道機関に報じられてしまうのでは。平成の時代から令和の時代に、地方にとってどの様な時代になるのだろうか、三島の町民にとって良き時代となるように祈りながら。

三島町長 矢澤 源成

■発行 三島町 ■編集 三島町役場 特命担当課

〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350 ☎0241(48)5511

■ホームページ http://www.town.mishima.fukushima.jp

■印刷 三洋印刷株式会社